

令和 5 年度システム委員会活動報告

1. 会議等の開催状況

- (1) 委員の選任および令和 5 年度事業計画の策定にかかるメール審議(令和 5 年 7 月)
- (2) 第 1 回会議
日時:令和 5 年 9 月 13 日(水)オンライン(Zoom)
議題:班/ワーキンググループ活動報告ほか
- (3) これからの学術情報システム構築検討委員会システムワークフロー検討部会とシステム委員会との意見交換会
日時:令和 5 年 12 月 7 日(木)オンライン(Zoom)
- (4) 第 2 回会議
日時:令和 6 年 2 月 28 日(水)オンライン(Zoom)
議題:班/ワーキンググループ活動報告ほか
- (5) 令和 5 年度システム委員会活動報告等に係るメール審議(令和 6 年 4 月)

その他、Slack 及び Backlog により詳細打ち合わせを行った。

2. 活動内容

- (1) 令和 5 年度事業計画の策定

国立大学図書館協会ビジョン 2025「重点領域 1. 知の共有:蔵書を超えた<知識や情報>の共有」「目標 1-3)知識や情報の発見可能性の向上」に資する活動として、システム事例共有に関する取り組み及び資料・情報アクセスに関する調査・検討を行う 2 つのワーキンググループを設置して活動をすすめていくこととし、委員およびワーキンググループで意見交換を行った上で、次のとおり事業計画を策定した。

令和 5 年度事業計画

- 総合目録データベースをはじめとする、他機関と連携した学術情報システムを高度化することにより、知の総体を対象として、必要な情報が効率的・網羅的・安定的・継続的に発見できる環境を実現するための企画立案等を行う。

- 活動計画/重点事項

1. システム事例共有に関する取り組み

- ・ 令和 3~4 年度の委員会活動で収集したシステム事例の可視性及び事例共有の利便性向上のため、協会ウェブサイトシステム事例共有のためのページを新設し、会員館へ周知する。

- ・ 会員館の主に学術情報システムに関する新規事例調査・意識調査を行うとともに、会員館現場スタッフの課題解決に役立つ企画を実施する。

2. 資料・情報アクセスに関する調査・検討

- ・ 「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について」(審議のまとめ)において提唱されているデジタル・ライブラリーの機能実現に向け、資料・情報へのアクセスについて、利用者志向のサービス、ワークフローの調査を行う。
- ・ ILL 業務に関して、令和 4 年度に行った検討内容を踏まえ、これからの学術情報システム構築検討委員会システムワークフロー検討作業部会等と次期 ILL システムに向けて協力する。

3. 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議これからの学術情報システム構築検討委員会及びその他の関連する外部組織と連絡調整・連携を行う。

(2) 「図書館を DX(ヘンカク)する」ページの公開

協会ウェブサイトのシステム委員会ページ内に「図書館を DX(ヘンカク)する」と題したページを令和 5 年 9 月に新設、公開し、会員館のシステム事例や図書館システムベンダーへのインタビュー等を収集し掲載した(約 60 件)。概要部分は一般公開とし、コンテンツを検索可能として可視性、利便性を高めた。各会員館が課題解決につながる詳細な情報を入手できるよう、問い合わせフォームを設け、質問への対応を行った。

(3) 「図書館のシステムに係る事例の共有に向けたアンケート」(第 2 回)の実施

令和 5 年 9 月～10 月にかけて、会員館の主に学術情報システムに関する新規事例調査・意識調査をウェブアンケート形式で実施し、収集した事例を取りまとめて令和 6 年 1 月に「図書館を DX(ヘンカク)する」ページへ追加公開した(約 30 件)。

また、事例調査・意識調査の結果を踏まえ、会員館の課題解決に向けた事例共有会、勉強会等について、令和 6 年度実施に向けて企画、検討を行った。

(4) 利用者志向のサービス、ワークフローの調査

RapidILL、ARROW 等、NACSIS-ILL を利用しない文献入手の業務フローや課題について、導入機関へインタビューを行い、その内容を「図書館を DX(ヘンカク)する」ページへ追加公開した。また、参考情報として、米国等におけるデジタル化を含むリソース・シェアリングの最近の動向について文献調査を行い、Controlled Digital Lending(CDL)の概念や課題についても情報収集した。これらの調査を踏まえ、令和 6 年 3 月に電子資料の相互利用をテーマとした会員館職員向けの勉強会「電子資料共有のための基礎知識・ILL・著作権・発見可能性」を企画実施し、255 名の参加があった。

(5) これからの学術情報システム構築検討委員会システムワークフロー検討作業部会等との協力

令和5年12月に、これからの学術情報システム構築検討委員会システムワークフロー検討部会図書館システム整備班と当委員会との意見交換会を実施し、相互の取り組みや「図書館システムガイドライン」及びシステムの共同調達・運用について情報交換を行い、企画や広報における協力事項を検討した。

3. 委員構成

○システム委員会

委員長:	佐久間 淳 一	名古屋大学附属図書館長
委員:	阿藤品 治 夫	茨城大学研究・社会連携部学術情報課長○
	斎藤 未 夏	東京大学附属図書館情報サービス課長○
	斎藤 未 夏	筑波大学学術情報部長●
	野中 雄 司	富山大学研究推進部学術コンテンツ課長○
	加藤 淳 一	浜松医科大学学術情報課長○
	加藤 淳 一	富山大学研究推進部学術コンテンツ課長●
	次良丸 章	名古屋大学附属図書館事務部長
	野中 雄 司	京都大学附属図書館研究支援課長●
	鈴木 雅 子	神戸大学附属図書館事務部長○
	阿藤品 治 夫	九州大学附属図書館図書館企画課長●
事務局:	佐藤 久美子	名古屋大学附属図書館情報管理課長○
	富岡 達 治	名古屋大学附属図書館情報管理課長●
	小嶋 悦 子	名古屋大学附属図書館情報管理課長補佐

○システム事例共有ワーキンググループ

主査:	野中 雄 司	富山大学研究推進部学術コンテンツ課長○
	野中 雄 司	京都大学附属図書館研究支援課長●
副主査:	阿藤品 治 夫	茨城大学研究・社会連携部学術情報課長○
	阿藤品 治 夫	九州大学附属図書館図書館企画課長●
	相澤 裕 介	岩手大学法人運営部学術情報課主事
	安達 修 介	東京大学農学部・農学生命科学研究科総務課図書チーム 一般職員
	稲毛 真 隆	東京工業大学研究推進部情報図書館課電子図書館 グループスタッフ
	西村 恭 佑	富山大学研究推進部学術コンテンツ課事務職員
	高瀬 菜 津	愛知教育大学学術研究支援課図書館運営室 資料利用係専門職員
	佐藤 孝 之	徳島大学学術情報部図書情報課総務係長
	山本 豪	鳴門教育大学教務部学術情報推進課附属図書館事務室 学術情報サービス係長

○資料・情報アクセス検討ワーキンググループ

主査:	加藤 淳 一	浜松医科大学学術情報課長○
	加藤 淳 一	富山大学研究推進部学術コンテンツ課長●

副主査： 磯 本 善 男 放送大学学園情報部図書情報課長
佐 藤 美 穂 名古屋大学附属図書館情報サービス課
調査学習支援グループ係長
夏 目 慎 也 滋賀大学附属図書館図書情報課
図書情報サービス第一係主任
疋 田 恵 介 佐賀大学学術研究部情報図書館課係長(学術情報主担当)

○:令和6年3月31日まで

●:令和6年4月1日から